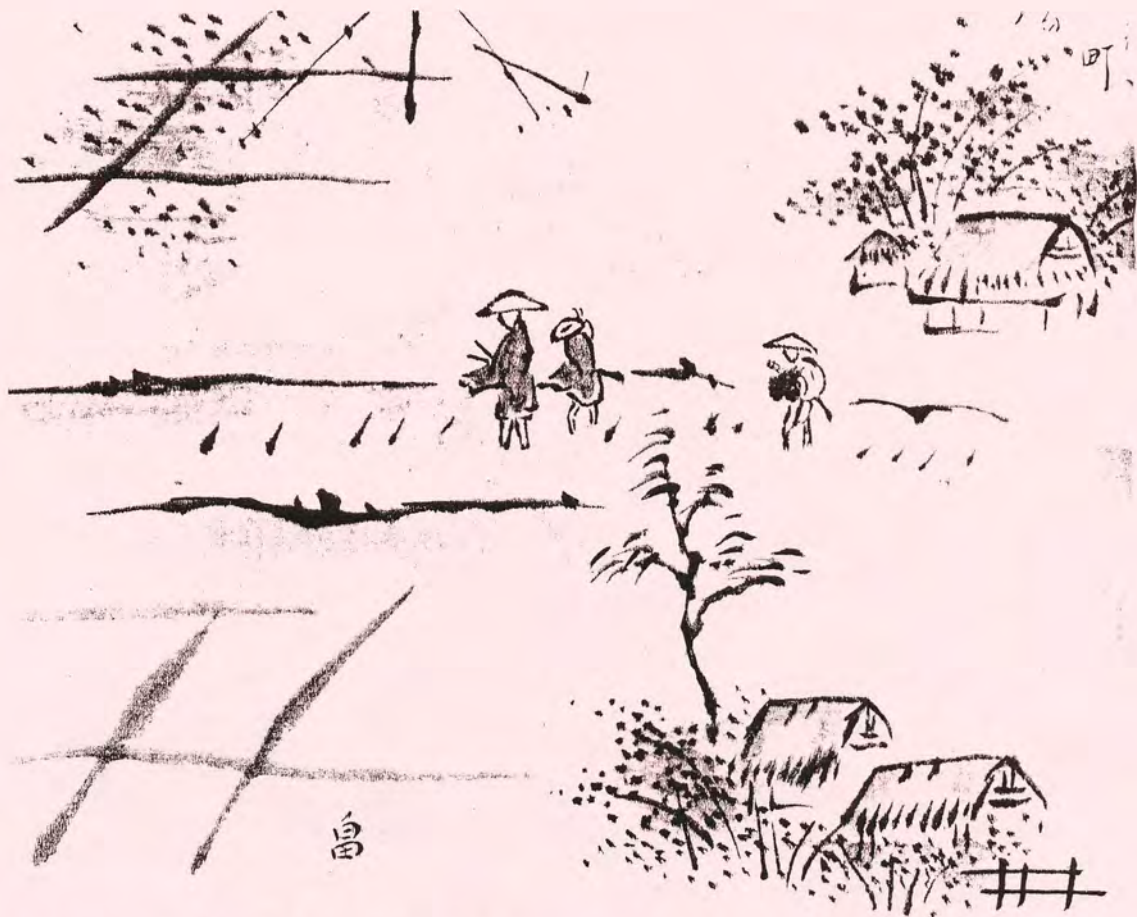


平成 17 年度 通常展

# 加賀の道

—金沢から各地へ—

- ・ 平成 17 年 8 月 23 日(火)~10 月 23 日(日)
- ・ 於 近世史料館 展示室



地黄煎町端(吉野村領拾景巡見紀行)

金沢市立玉川図書館 近世史料館

はじめに

平成 11 年に近世史料館が開館して以来、毎年 8、9 月は特別展を開催してまいりましたが、本年は通常展として所蔵史料の中から、「加賀の道」として、関係史料を展示しました。

内容は加賀・能登・越中における政治・経済・文化の中心に位置した金沢が道路網の基点でもあり、城下町金沢から諸所に至る道々に関する史料を紹介いたします。

道というと「北陸道」を思い浮かべますが、「北陸道」ばかりではなく、脇道・枝道にも目を向けたものとなりました。



## 展示史料一覧

### 1-1 〔道中図〕 全国図

1. 大日本早見道中記 請求番号 291.03-35  
弘化2年(1845)以後成立、富士宮東遊子 校正、東都須原屋茂兵衛 他刊  
全国図で、距離情報が主であるが、各城下の情報も含まれる。
2. 道中独案内図 文化5年(1808)図の改版 大 1288-2(別置 6-3)  
各宿駅間の距離情報図で、ここでは北国道中の「駄賃付」を示した。
3. 日本道中図(巻一 金沢泉野ヨリ西国迄之絵図并道程付) 年未詳 大 1249  
全6巻(2巻目欠)からなり、1巻目が赤穂・姫<sup>(マ)</sup>地 一大坂一金沢の行程を記し、  
ルートとして本道以外の脇道も示されている。
4. 大名行列図 年未詳 大 1230  
「山越」「川越」の際の行列の様子を具体的に示すもの。

### 1-2 〔道中図〕 北陸筋

5. 加越能三州(之)図 文化5年(1808)、前田貞寧 手写 16.20-99 (11-5)  
加賀・越中・能登三国図であるが、宿駅間の距離・人馬数が書き込まれ、  
湊の情報も含まれている。
6. 駅路旅鈴 安政5年(1858)、遠藤数馬(高朗)著、鳶虎右衛門 刊 13.0-123  
江戸一金沢間、各宿駅の様子などの情報が記される。
7. 金城北国往還道中図 安政6年、石田太左衛門著 090-311  
金沢ー江戸本郷間。行程中の情報は記号で示され、区分として「大道」「小道」の  
別、「舟渡」「橋」などがある。
8. 下道中折本 年未詳 090-379  
金沢ー江戸間、街道に関する情報は少ないが、絵画性が高く、江戸の部分の情報  
も他の道中図以上に詳細である。
9. 江戸至金沢図 年未詳 16.78-37  
日本橋一金沢間、各地の風景、眺望に関する記述に特長がある。

### 2 〔行程・里数〕

10. 江戸より金沢迄の道しるべ 年未詳 16.78-43  
各地間の距離の他に人馬駄賃、古蹟、茶屋、旅屋の所在など、多くの情報が盛り  
込まれている。

11. 旅行之節諸事聞書 年未詳 16.78-79  
 旅の注意・情報が盛り込まれたもので、ここでは「飛脚刻限」の部分を示した。  
 金沢-江戸間は、常飛脚が夏期で10日、冬期で12日、早飛脚が同様に5日・6  
 日とされている。
12. 金沢江戸間里程図、金沢京江戸間里程表 年未詳、中村由忠 編 090-256(17-3)  
 金沢-江戸間の行程図で、各様の行程が距離を勘案しながら選択できるよう  
 になっている。
13. 金沢ヨリ江戸・京マデ道中里程図 年未詳 096.0-278(18-3)  
 金沢から江戸・京間の行程図。江戸行については、東海道廻りで153里余、  
 中仙道廻りで163里余、北陸道を使用した場合は119里余となっている。
14. 加越能諸街道里数帳 明治3年(1870)、金沢藩編 16.78-8  
 諸道の道程と共に諸橋の長さ等も記される。

### 3 [道中双六]

15. 新板加州金沢道中案内記 幕末期、歌川豊国画 090-603(17-4)  
 江戸を振り出しにして、金沢を上りとした下通り道中双六。
16. 新板金沢道中双六 年未詳、一寿斎芳員 画、江戸 和泉屋市兵衛 刊 K7-129  
 日本橋を振り出しに、本郷を過ぎて、金沢を上りとするもの。
17. 新版北陸道中巡覧双六 年未詳 K7-355  
 金沢-東京間(下通り)の道中双六。

### 4 [金沢からの道]

18. 宮腰道筋村々道の里の御帳 正保3年(1646) 16.78-13  
 金沢-長田-二口-若宮-北村-藤江-松村-畝田-寺中-宮腰間の距離が記さ  
 れている。
19. 吉野村領拾景巡見紀行 寛政6年(1794)[原著]、矢田広貫(四如軒) 画 21.2-200  
 吉野十景を遊覧し、その景を図絵としている。
20. 三州測量図籍 天保4年(1833) 16.20-118  
 射水郡高木村藤右衛門の作成になる測量図で、金沢からの道として、「二俣道」  
 「粟崎道」「石引道」「倉谷道」「野田道」「御上使往来」「米泉村への道」  
 「増泉村等への道」「間明村等への道」が見え、「北陸道」については「往還道」  
 と記されている。
21. 山中行記 年未詳 16.93-38  
 泉出町から山中温泉までの道程を絵図で示したもの。

22. 鶴来往来附近之図 年未詳 18.9-32  
 鶴来往来は御上使道とも呼ばれる。図では往来に沿う高尾・四十万等の村名が記されると共に、大乘寺道・野田往来・小立野往来の道筋も描かれている。
23. 加越能諸街道絵図 明治初期、金沢藩編 16.78-9  
 三ヶ国の諸街道を脇・枝等に区分し、宿村、人家、川を記し、各々間の距離を記す。

## 5 〔関所・藩境〕

24. 大聖寺図 年未詳 16.29-33(12-2)  
 加賀と越前の境となる関所の地を紹介した。
25. 能美郡絵図 年未詳 16.60-152(13-1)  
 ④ 御公領堺、尾小屋、西俣村御口留所図  
 ⑦ 白山川流入谷、木滑、河原山御関所周辺図  
 加賀と越前(白山麓天領)との境に設置された番所を紹介。一般に関所と称する番所は幕府の設置した施設であり、各藩が設置したものは「口留」と称される。
26. 境関所等之図 年未詳 16.78-49  
 越中と越後境の関所資料。
27. 白山史図解譜 明治17年(1884)、金子有斐 著、横山政和 手写 16.93-27  
 加賀と白山麓天領の境に設置された、木滑番所の様子を示す。

## 6 〔旅行記・旅の心得〕

28. 山中湯治日記 正徳5年(1715)、大野木克明 著 16.38-31  
 山中湯治行の日記。ここでは帰路の金沢町端の部分を示した。
29. 木曾路記 寛延4年(1751)ほか、竹田昌忠 著、森田平次 手写 16.93-18  
 参勤の供人として江戸行の時の旅日記で、松任・栗生の部分を示した。
30. 改正増補 大日本国順路明細記大成 21.2-154  
 嘉永3年(1850)、山崎久作 校正・増補、東都 和泉屋市兵衛 刊  
 蝦夷から南は対馬、さらに朝鮮半島まで記される図で、各地間の距離が示される。ここでは旅の知識として諸情報の部分示した。
31. 道中名所記 嘉永7年(1854)刊、金府 等願精舎 蔵版 16.93-31  
 上方を中心とした名所記で、金沢から京に至る部分のうち、野町、野々市の部分を示した。各地の名所・名物・歴史が記されている。

32. 富田雨邨〔旅日記〕 元治元年 23.2-38

富田雨邨は金沢の町人。雨邨は俳号で、俳諧のみならず漢詩も長じていた。  
屋号を館屋、名は平七。明治に入り富田を姓とし、金沢為替会社に勤めた。

33. 富田松栄 旅行日記 23.2-39

慶応2年(1866)・明治2~4・6・8年、明治年間編集  
明治2年(1869)の東京行の日記で、金沢から高岡に至る部分を示した。

34. 旅行用心集 年未詳 091.7-110

31 と同じく、旅の心得(情報)を記したもので、「初旅」の項から、「諸国御関所」  
の情報まで61ヶ条からなる。

35. 三日月の日記 明治31年(1898)、浅香久敬(通郷)著、森田平次 手写 16.93-10

元禄9年(1696)能登への旅道記で、金沢を発して、浅野川を渡り、桃ヶ坂(百坂)に  
至る部分を示した。順路は津幡から能登街道に至るものである。



大名行列図 年未詳